

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300661		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホームうぐいす (愛夢の里)		
所在地	岡山県津山市瓜生原337-1		
自己評価作成日	令和 2 年 1 月 28 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&JlgycsyCd=3370300661-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 2 年 2 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・閑静で豊かな自然に囲まれた場所にあり、四季折々の季節を感じることができます。春にはホームの前に植えてある桜の木が咲きほこり、秋には木々が紅葉する様子は利用者様にとってとても刺激になっています。 ・ご利用者様一人一人が存在を必要とされる場所として、できることをして頂きながら、安心して穏やかに生活して頂ける様、又ご利用者様のプライドを大切に自分らしく明るく生活出来る様に支援します。 ・この地区ならではの季節の行事等にも積極的に参加させて頂き、地域の方々との交流があります。 ・職員の介護資質のレベルアップと職員間の意志疎通に力を入れており、サービス向上に向けての会議を行い、研修等に積極的に参加しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人一人が自然の中に溶け込み、四季折々の季節と同じ様に育む場所として、利用者の存在が如実にアピール出来る施設となっている。利用者も職員が提案する「安心して穏やかな生活」を当たり前を受けていて、ここそが我が家という気持ちで暮らしている。利用者が、「我が家」を肌を感じる為に、常に職員は、意思疎通を図り、感謝の念を以てサービスの向上に努め、利用者一人ひとりの触れ合いの場としている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内のよく見える場所に理念を掲げて、職員全員が共有し、ミーティング等で再確認して実践に努力している。	事務所とフロアに掲示していて、出勤時に個々で理念を一読する心がけをしている。さらに、月に一度のミーティングで振り返ることで、理念に沿っているかどうかを確認し、日々の実践と利用者の様態と照らし合わせながら、「GHうぐいす」らしさを形作るように努力している。	経営理念を大きく掲示し、一つ一つの方針にまで落とし込み、一つのテーマを職員が何をするのかを具体的にし、心に刻む様に別記しては、如何でしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所が主催する納涼祭に参加、又秋祭り等地域の行事に参加している。	地域の交流は、年に一度は必ず参加し、ふれあいや買い物を楽しんでいる。年一回開催の子ども神輿が来訪されるので、利用者も童心に帰って賽銭を投げ入れて、ひしひしと昔を思い出している。職員もそんな姿を見て元気もらっている。	子供達のもっと元気な声を聞きたいので、避難場所や遊び場として開放し、馴染みの場所として誰でも来られる様にして頂きたい。また、消防署・警察署や学校関係者が気軽に来られる地域になるよう築いて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症に対する情報を発信することで、認知症についての理解を深めていただけるように努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日常生活や、行事について報告し、時期にあった情報を提供している。課題、要望を職員で検討し、サービスの向上に役立てている。	隔月に開催していて、市役所・民生委員・地域住民代表・消費生活センター、家族などが参加している。会議での感染予防の情報は速やかに配信し、利用者へは、日々の介護の場面を議事録などでお伝えするとともに、具体的な関わり方の提案を家族から頂いて情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催の研修会に参加し、運営推進会議には必ず参加していただいている。業務上の不明なことはその都度相談している。	主たる窓口は管理者で、役所の方とは何でも話せる馴染みの関係が構築されている。最近ではメールを活用して、忙しい時でも文字から伝えることで、連絡のキャッチボールが深まり、より確実性が高まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に一回開催。委員会の内容を共有、研修会などに参加し、ミーティング等で話し合っている。新人研修も行い職員全員が正しく認識し日々努力している。	身体拘束適正化委員会で、拘束について理解を深めている。身体拘束はしていないスピーチロックもしない様に徹底実践している。医療機関でのたまたまの身体拘束を目の当たりにして、最新情報を得る為の努力や市町村との連携で新たな研修方法も取り入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払	研修会に参加し、申し送り時、ミーティングなどに話し合い、高齢者虐待防止法に関する理解を深めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修会に参加し、ミーティング時等に話し合い、必要なときには活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、運営規定、重要事項説明書等を詳しく説明して、理解、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時等機会をとらえて、またご利用者には日常の会話の中で思っていることを話していただけるように対応している。意見や要望をミーティング時等で話し合い運営に反映させている。	面会以外にも、電話で機微な状態の変化や現状をお知らせしている。遠慮されがちな家族への想いを汲み取ろうと、積極的に声をかけ、ケアの質の維持や日々の改善を模索している。認知症の度合いと家族の想いを考慮して一時帰宅の送迎も支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開くミーティングや申し送り時に、運営に関して意見交換を行い、職員の意見、提案を業務に反映させている。	定例のミーティング以外にも、日常から職員とはフラットな関係を保ち、何でも話し合える関係を築いている。管理者不在の状況も、「このように対処しました」などと、事後報告が必ず上がってきて、チームワークが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リーダー会議から職場環境を把握しており、職員各自が向上心を持って働けるよう資格取得の支援、健康管理等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修に参加支援をし、本人の資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市役所や地域包括支援センター等の研修会に参加し交流することでネットワークをつくり、サービスの質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時にこれまでの生活状態を伺い、ご家族とご本人の思いや不安を受け止め、安心していただき良い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご苦労や状況などこれまでの経緯、入所するに当たっての不安や要望等を伺い、ご家族の思いを受け止めるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の思い、困っていることなどに耳を傾け、信頼関係を築き、ご本人にとって一番良いサービスを考えながら、相手の立場に立った支援を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者は人生の先輩であり、昔からの伝統や知恵を教えていただきながら、家事等を一緒にできるよう工夫している。また子供の頃の話し遊び等を話しをし関係を深める		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の日頃の様子、状況を、ご家族が面会に来られた時や、電話等で報告、相談をすることで信頼関係を築き、ご本人の状態を把握していただけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、友人等の訪問があったときは居室でゆっくり過ごしていただけるよう努めている。気分転換にご家族と外出される方もいる。	おほかえの訪問理美容さんが定期的に来られ、楽しい場が作られている。自宅近所の茶飲み友達や愛育委員をされていたかつての仕事仲間や県外に勤める甥御さんが帰省の時に立ち寄られている。広大な敷地一帯が馴染みの場となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どの方がホールで過ごされ、毎日の食事やおやつの時間には職員も一緒に過ごし、会話を多く持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されるときは、情報提供を行っている。状況が可能であれば退所後でも面会に行かせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけを行い、言葉や表情を読み取り、ご利用者の立場に立って、思いを汲み取るように工夫している。	発語や会話が出来なくなってしまう方や不穏感が強い方には、特に気配りをし、普段の観察や関りから本心を読み取り、想いを汲み取ってケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時やご家族の面会時に生活歴、生活状況を把握して職員間で共有し、ケアに生かすように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動、行動、表情等で一人ひとりの生活リズムを把握し、その日の心身の状態に合わせて、その人らしく生活していただけるように職員全員で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思い、ご家族の要望に添うようにミーティング等で話し合い、定期的に現状に即した介護計画を作成している。	管理者兼ケアマネジャーが計画を作成している。モニタリングは入所時・入退院時・状態が変化した時・特段変わりなければ半年毎に行い、家族の見舞い時や定期的な電話で都度毎に見直しし、職員全員でケースカンファレンスしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや実践を、ご本人が発した言葉を交えて介護記録に具体的に記入するようにし、申し送り時やミーティング時等に、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のご本人、ご家族の状況に合わせて、できるかぎり希望、要望に臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2ヶ月に一回の理容サービスを活用している。運営推進会議に行政担当者、地域の役員の方などが参加され、周辺地域の支援に関する情報を伺い、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は月2回往診に来られる。ご利用者の体調に変わりがあれば、その都度相談し、対応して頂いている。通院は原則としてご家族に依頼している。	協力医は緊急時24時間、いつでも往診している。かかりつけ医とは冗談も言い合える関係で家族の意見もよく反映され、和んで安心した関係ができ、家族に言いにくいことも医師が代弁している。入居前のかかりつけ医を継続される方は、受診介助は家族がしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が2週間に一度来られる。情報や状況の変化を伝え相談して、適切な対応ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時、情報交換を行い記録に残している。ご家族とも回復状況について情報交換を行い、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族と話し合い説明し、意向を聞き、重度化した場合の同意を得ている。安心して生活ができるようにご利用者の状態、変化に伴い、その都度ご家族と話し合い、良い方法を見つけるよう支援している。	看取り期に入る前に、家族とは建前でなく本音の話し合いをすることで、親族の気持やお金の話等、その人の身になって話し合っている。看取りは出来る様に心がけているが、家族と相談の上、特養や医療機関にすすめることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや事例を元に定期的にミーティング等で確認している。個別に緊急時持ち出し用ファイルを作成し緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回ご利用者とともに避難訓練を行っている。近隣の法人関連事業所、地域の消防団とも連絡体制が整っている。全職員で避難方法を共有している。地震、水害に対する計画等は法人全体としての対応に従う。	消防署は年1回参加し、隣接しているデイサービスと合同で訓練をしている。年2回の開催では、昼想定1回、夜想定1回としている。備蓄は2日分(水・缶詰・レトルト食材)を保持し、利用者とともに作った防災頭巾も実用するために備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者として尊敬し、プライバシーを守り、本人の気持ちをくみ取り、プライドを大切に丁寧な対応を心がけている。	共有フロアにL字ソファと一人掛け椅子が備えられ暖を取っている。利用者の生活歴や職歴から人柄や生き方を汲み取り、本人が好ましい関わり方や言葉かけをしている。敬称は、基本、〇〇さん付けだが、ご家族からの依頼により、〇〇ちゃん付けなど、本人が呼ばれたい呼称にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いを言いにくいご利用者には、理解してもらえよう説明を行い、自己決定しやすい言葉かけをするように努め、自分らしい生活ができるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせた対応を心がけている。ご本人の体調を尋ねたり、希望を聞き、ご本人のペースを大切に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好み、意向に合わせて、衣服の選択、整容等介助支援を行っている。自己決定できにくいご利用者にもできるだけご本人の意思に添った支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせた手作り料理を提供している。玉ねぎの皮むき、豆の筋とり、テーブル拭き等下準備を一緒にして、食事は職員もご利用者と同じテーブルを囲み食べている。	三食手作りだから殆どの方が完食されるので、体重管理が大変だ。近所の青空市は、買い物も地域の方と触れ合える楽しみにもなっている。裏の畑で茄子やキュウリや南瓜、ミニトマトなどを収穫し、日頃の献立に華を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調に合わせた食事形態を提供している。食事摂取量、水分摂取量はその都度チェックしている。お茶の時間には多種類の飲み物を準備し、飲みやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声かけ、見守りをし、できない方はできないところを支援する等、一人ひとりに合わせた口腔ケアをしている。義歯洗浄も定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を基に、プライバシーに配慮した声かけ、誘導を行い、できる事は自分でして頂きながら、トイレでの排泄を促すようにしている。	利用者の表情やしぐさを普段から見ている、タイムリーな言葉かけをし、さりげなく誘導している。入居前には紙オムツでも、チームケアにより、布パンツに改善される方もいる。特に、トイレ誘導の時には、周囲に気付かれない様に言葉をかけし、自立できるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、繊維の多い食材、乳製品等を摂取していただくよう工夫している。かかりつけ医と相談して排便コントロールを行っている。歩ける方にはホール内を歩行して頂き少しでも運動をしてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴することができ、ご本人のその日の体調と希望に合わせて対応をしている。入浴を嫌がられる方には、声かけを工夫したり、時間をずらしたりして対応している。	毎日入浴して頂ける事が、事業所の売り。あとは、その方の体調に応じて頻度を調整している。皮膚アレルギーも考慮して、入浴剤はあまり使用せず、冬は柚子湯や季節湯など身体に優しい心がけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に合わせて、休息を取り入れたり日中の活性化を行い、生活のリズムを整えるようにしている。夜間は一人ひとりに合わせて室温や照明を工夫し安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は一人ひとりに手渡しで行い、自分でできない方には口の中に入れるところまで介助して、服薬してもらっている。薬の説明書も解りやすくしている。薬の変更時には、連絡ノート、口頭等で申し送りしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮していただけるように、洗濯物干し、洗濯物たたみ等できそうな仕事をしていただき、毎回感謝の言葉を伝えるようにしている。塗り絵、パズル等への参加支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化を楽しむために身体的に可能な方は、時にはドライブ、外食に外出するようにしている。天気の良い日には体調に合わせて日光浴、散歩に誘ったり、買い物に出かけたりしている。	月に1度は、全ての利用者をドライブにお連れする。とくに敷地内での焼き肉が楽しみで頻りに和んでいる。天気の良い時には、お出かけを毎日する様に心がけ、出向くことが難しい方には、出向いてくれる業者の方に声をかけて行く様になにかの策を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてご家族からホームで預かり、必要なものを職員が購入している。買い物に同行されたとき時、支払いをお願いする事もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご本人から希望があり、ご家族の都合がよければ対応している。毎年年賀状を職員が手伝いながら準備してご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示板にご利用者の塗り絵等の作品や、行事の写真、季節に応じた掲示物等を飾っている。昔を懐かしく感じる家具を置き居心地良く、家庭的な雰囲気の共同空間となるよう工夫している。	玄関を入った直ぐ脇にある畳の座上げからは、よく陽が差し込み、とてもポカポカで和やかな気持ちになる。吹き抜けの有る広々したフロアに、サークル状に作られた敷地から山々が見渡され、悠々とした気持ちと、爽やかな風が流れて、ピリッとした姿勢が正せる、そんな四季を味合える自然を共有した空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の続きにソファを配置し、テレビをみたり、ご利用者同士で会話をしたりできるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口には表札を掲げ、自分の部屋を確認できるよう、目印にしている。ご利用者のなじみのものを、ご家族と相談して置いていただくようにして、ご利用者が安らぎを得ることができるよう工夫している。	入口の表札の横に素焼きの装飾があり、居室玄関を彩っている。アンティーク調のベッドと床頭台、洗面台が常設されスッキリした部屋なので、防災に役立つ。家族写真や家族の描いた絵が豊富に飾られ、鶯の音が聞こえる如く装飾品が利用者に語りかける。共有空間で過ごす事が常だからこそ、居室は郷愁を誘いホッとできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドア、トイレ等に必要な目印をつけ、一人ひとりの身体状態に合わせて、自分の力をいかに活かして動けるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300661		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム うぐいす (うぐいす)		
所在地	岡山県津山市瓜生原331		
自己評価作成日	令和 2 年 1 月 20 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyoSyocCd=3370300661-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2-2-18
訪問調査日	令和 2 年 2 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれ、四季折々の季節を感じて頂きながら、利用者様が自分らしく生活して頂けるように努めています。利用者様の入れ替わり・レベル低下もあり、意思疎通困難な方、徘徊される方、独語がある方、また足元不安定な方多く、ひとり一人その方に沿った日々の支援に努めています。屋外へ出向く機会・2年に1回は日帰りバス旅行を試み、地域の方々との交流も育みながら、楽しい時間をもって頂けるように努力しています。また外国人労働者就労支援が新しく始まり、就労者の一生懸命な姿、徐々に利用者様との距離も縮まる様子に、改めて心は通じ合うとうことを実感し、利用者様のお気持ちに寄り添い、穏やかに自分らしい生活を継続して頂けるように、サービス向上に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者一人一人が自然の中に溶け込み、四季折々の季節と同じ様に育む場所として、利用者の存在が如実にアピール出来る施設となっている。利用者も職員が提案する「安心して穏やかな生活」を当たり前を受けていて、ここそが我が家という気持ちで暮らしている。利用者が、「我が家」を肌を感じる為に、常に職員は、意思疎通を図り、感謝の念を以ってサービスの向上に努め、利用者一人ひとりの触れ合いの場としている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事業所内のよく見える場所に掲げて職員全員が理念を共有し実践に努力している。 ミーティングや、日々の話し合いの中で支援に繋がるよう努めている。	事務所とフロアに掲示し、出勤時に個々で理念を一読する心がけをしている。さらに、月に一度のミーティングで振り返ることで、理念に沿っているかどうかを確認し、日々の実践と利用者の様態と照らし合わせながら、「GHうぐいす」らしさを形作るように努力している。	経営理念を大きく掲示し、一つ一つの方針にまで落とし込み、一つのテーマを職員が何をするのかを具体的にし、心に刻む様に別記しては、如何でしょうか？
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のふれあい祭りや、同事業所が主催する納涼祭などに参加し、出店で買い物などされ、社会交流が出来る。	地域の交流は、年に一度は必ず参加し、ふれあいや買い物を楽しんでいる。年一回開催の子ども神輿が来訪されるので、利用者も童心に帰って賽銭を投げ入れて、ひしひしと昔を思い出している。職員もそんな姿を見て元気をもらっている。	子供達のもっと元気な声を聞きたいので、避難場所や遊び場として開放し、馴染みの場所として誰でも来られる様にして頂きたい。また、消防署・警察署や学校関係者が気軽に来られる地域になるよう築いて欲しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様の面会時や、地域推進会議等で日頃の利用者様の生活状況をお話する中で、認知症を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話題、要望を検討し、サービス向上に努めている。利用者様の状況報告行い、日常生活の様子や行事等、スライドショーを観ながら、自然に意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。	隔月に開催し、市役所・民生委員・地域住民代表・消費生活センター、家族が参加。会議での感染予防の情報は速やかに配信し、利用者へは、日々の介護の場面を議事録でお伝えするとともに、具体的な関わり方の提案を家族から頂いて情報共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する研修会に参加。運営推進会議で市の担当者が来られる事でホームの状況やケアの取り組みを伝えられている。課題など職員間で検討し、サービスの向上に努めている。	主たる窓口は管理者で、役所の方とは何でも話せる馴染みの関係が構築されている。最近ではメールを活用して、忙しい時でも文字から伝えることで、連絡のキャッチボールが深まり、より確実性が高まっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2ヶ月に1回開催委員会の内容を共有したり、研修会・セミナー等参加、新人研修も行い職員全員が正しく認識するよう日々努力し話し合い等行っている。日中は玄関、窓を解放している。野外に出られる方には一緒に付き添っている。	身体拘束適正化委員会で、拘束について理解を深めている。身体拘束はしていないスピーチロックもしない様に徹底実践している。医療機関でのたまたまの身体拘束を目の当たりにして、最新情報を得る為の努力や市町村との連携で新たな研修方法も取り入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加し、申し送り、ミーティング等話し合い、職員への理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、ミーティング等で話し合い、職員全員が理解するようにしている。当方では現在必要とされる方はいないが、今後必要な方が入れば活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時に説明し同意を得ている。また契約内容に変更があれば再度同意の取り直しもしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口・ご意見箱の設置を行っている。面会時、電話連絡時、行事参加等に、日常の様子をご家族にお話し相談をしながら行なっている。ご入居者からは、日々の会話から聴く努力をしている。	面会以外にも、電話で機微な状態の変化や現状をお知らせしている。遠慮されがちな家族への想いを汲み取ろうと、積極的に声をかけ、ケアの質の維持や日々の改善を模索している。認知症の度合いと家族の想いを考慮して一時帰宅の送迎も支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送り時やミーティングで意見、提案を聴き、話し合いを行い、反映させている。	定例のミーティング以外にも、日常から職員とはフラットな関係を保ち、何でも話し合える関係を築いている。管理者不在の状況も、「このように対処しました」などと、事後報告が必ず上がってきて、チームワークが図られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、各事業所会議にて、日頃の努力や、具体的な実績、勤務状況を把握し各自は向上心を持って、働けるよう配慮、対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外研修会へ参加し、各自の向上心と、資質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や包括の勉強会に参加し、交流を行いながら、ネットワークづくり・資質向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接時には、これまでの生活状況、介護の情報等把握し要望を聞いている。又入所前にホーム見学していただき関係作りに努め安心して来ていただけるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの様子を電話連絡したり、相談にのるなど努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に何を望まれているか、当サービスを利用することが適切かどうか検討させていただいている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に合わせた日常生活を職員と共に過ごしている。普段の会話から、昔からの伝統や風習などを教えて頂きながら、お手伝いをして頂いたり懐かしい話題に盛り上がり、関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に時間をとっていただき、ご家族と一緒に時間を大切に頂く。又、面会時や電話等で日頃の様子・状態を細かくお伝えし把握して頂く事によって、ご本人を近くに感じて頂けるよう関係を育み、努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族、親戚、友人等の面会時にはゆっくり過ごして頂けるよう配慮してる。お正月、お盆などに自宅へ日帰りや外泊され、家族の時間を過ごされる方もいる。	おつかえの訪問理美容さんが定期的に来られ、楽しい場が作られている。自宅近所の茶飲み友達や愛育委員をされていたかつての仕事仲間や県外に勤める甥御さんが帰省の時に立ち寄られている。広大な敷地一帯が馴染みの場となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は殆どの方がホールで過ごされ、互いに馴染みの関係となり、コミュニケーションが出来るよう工夫しています。気の合う入居者同士の席には配慮している。			

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には情報提供を行い、退所後、可能であれば面会を行ったり、ご家族様とお会いした時には、様子をお聞きしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向の把握に努めている。言葉で聴くと「だいたいよぶ・なんでもない・ええ・わからん」とニーズの把握は難しいが、日々の関わりの中での様子、表情から汲み取るよう努力している。	発語や会話が出来なくなってしまう方や不穏感が強い方には、特に気配りをし、普段の観察や関りから本心を読み取り、想いを汲み取ってケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面接時の聴き取りと、ご家族からの情報は職員間で共有しケアに生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動、行動、表情等で一人ひとりを把握し理解するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等で、職員間の意見交換、ケアの統一まで話し合う。介護計画の作成にあたり希望等、お聞きしている。又、電話や面会時に日常の様子をご家族にお話しし、思いを汲み取り要望に繋げられるよう努めている。	管理者兼ケアマネジャーが計画を作成している。モニタリングは入所時・入退院時・状態が変化した時・特段変わりなければ半年毎に行い、家族の見舞い時や定期的な電話で都度毎に見直しし、職員全員でケースカンファレンスしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートや医療に関する情報を共有している。又、気づきや実践、ご本人の言葉を介護記録に具体的に記入する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人ご家族の状況に合わせて出来る限り支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として2～3ヶ月に一回の理容サービスを活用している。運営推進会議に市担当、地域の役員の方など参加して頂き、周辺地域の支援に関する情報を伺い協力を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診体制を整えており、月2回往診、何かあれば相談し対応して頂いている。通院は原則としてご家族に依頼しているが、ホームも協力はしている。	協力医は緊急時24時間、いつでも往診している。かかりつけ医とは冗談も言い合える関係で家族の意見もよく反映され、和んで安心した関係ができ、家族に言いにくいことも医師が代弁している。入居前のかかりつけ医を継続される方は、受診介助は家族がしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護が2週間に一度来られる。情報や状況変化を伝え相談して適切な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には情報提供を行い、随時、連絡を取り合っている。退院に向けて、ご家族・病院の相談員からの回復状況を提供して頂き速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時説明して同意を得ている。必要に応じて、ご家族と話し合いの場をもうけ、出来ることを説明しながら本人が穏やかに過ごせるよう努めている。	看取り期に入る前に、家族とは建前でなく本音の話し合いをすることで、親族の気持やお金の話等、その人の身になって話し合っ決めていく。看取りは出来る様に心がけているが、家族と相談の上、特養や医療機関にすすめることもある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルや事例を基に勉強会や初期対応の訓練を行い緊急時に備えている。緊急時に備え持ち出しファイルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回(火災・地震)実施している。近隣の法人関連事業所、地域の消防団とも連絡体制が整っている。職員間で共有している。	消防署は年1回参加し、隣接しているデイサービスと合同で訓練をしている。年2回の開催では、昼想定1回、夜想定1回としている。備蓄は2日分(水・缶詰・レトルト食材)を保持し、利用者とともに作った防災頭巾も実用するために備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員それぞれが、我が身にふりかえて考え、尊厳をきずつけないよう、声かけ、行動が行えるよう努めている。	共有フロアにL字ソファと一人掛け椅子が備えられ暖を取っている。利用者の生活歴や職歴から人柄や生き方を汲み取り、本人が好ましい関わり方や言葉かけをしている。敬称は、基本、〇〇さん付けだが、ご家族からの依頼により、〇〇ちゃん付けなど、本人が呼ばれたい呼称にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる環境に努め、意思表示できにくい方には、表情や仕草を読み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせた対応を心がけている。ご本人の体調を尋ねたり、希望を聞き、ご本人のペースを大切に過ごされるよう環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好み、意向を合わせて衣服の選択、整容等、介助支援を行っている。自己決定できにくい方には、着やすい、好きな色やお似合いになるものを考え支援する。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買って来た四季折々の野菜、果物等、色んな話に花が咲き楽しめるようにしている。又、野菜の筋とり、玉葱の皮むき等、出来ることへの工夫も行っている。	三食手作りだから殆どの方が完食されるので、体重管理が大変だ。近所の青空市は、買い物も地域の方と触れ合える楽しみにもなっている。裏の畑で茄子やキュウリや南瓜、ミニトマトなどを収穫し、日頃の献立に華を添えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量はその都度チェックしている。一人ひとりの状態にあった食事形態にしている。(トロミ・キザミ食)お茶の時間は水分が摂取出来るように種類を変え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後、支援している。ポリドント洗浄も定期的に行っている。生き歯の方もおられ各自に合わせたケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け把握に努めて、トイレ誘導している。またソワソワされる方のタイミングを伺いながらトイレ誘導排泄を促している。日中はほとんど失敗なく、すむ方もある。	利用者の表情やしぐさを普段から見ている、タイムリーな言葉かけをし、さりげなく誘導している。入居前は紙オムツが、チームケアにより、布パンツに改善された方もいる。特に、トイレ誘導の時には、周囲に気付かれない様に言葉をかけ自立できるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、繊維質の多い食材、乳製品等を摂取できるように努めている。排泄チェック表記入し、Drと相談し排便コントロールを行っている。ホールを歩くなど支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っている。その日の体調や気分に応じて入浴されない方が時にはあるが、入浴を楽しみにされている。入浴拒否される方には、声かけを工夫したり、時間をずらすなどで対応している。	毎日入浴して頂ける事が、事業所の売り。あとは、その方の体調に応じて頻度を調整している。皮膚アレルギーも考慮して、入浴剤はあまり使用せず、冬は柚子湯や季節湯など身体に優しい心がけをしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握し、休息を取り入れた日中の活性化を行い、安眠できるよう工夫している。何度も起きてこられる方のコミュニケーションを図り室温調節も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用している、薬が分かるように、ファイルに薬の説明書を綴じて職員が見ることが出来るようにしている。職員間で、服薬支援、状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌をうたったり、絵や作品づくり等の支援、自分の役割と感じ、生き活きと暮らして頂けるよう、洗濯物干し・洗濯物たたみ等、個々の力に合った事を一緒に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	時折り職員と食材を買いにい。ご家族の協力もえながら可能な方は、ドライブ・外食も楽しめている。ホームの立地廻りでも四季折々が楽しめて散歩や日光浴も気分転換になっている。2年に1回、市外への日帰りバス旅行も楽しんでもらっている。	月に1度は、全ての利用者をドライブにお連れする。とくに敷地内での焼き肉が楽しみで頻繁に和んでいる。天気の良い時には、お出かけを毎日する様に心がけ、出向くことが難しい方には、出向いてくれる業者の方に声をかけて行く様になにかの策を考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	身体的状況により関心が見られない、お金の価値感が解らない、買い物は職員に委ねる等で日常的にはできない状態である。買い物に同行された時、支払いを促すこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があり、ご家族の都合がよければ対応している。声かけでやってみようと言われる方には職員が手伝いながら年賀状を作成しご家族に送れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールなどに観葉植物や花を飾り目を楽しませている。壁には行事ごとの作品や写真を飾ることで季節感や適度な刺激をだしている。広いホールを自由に行動できている。	玄関を入った直ぐ脇にある畳の座上げからは、よく陽が差し込み、とてもポカポカで和やかな気持ちになる。吹き抜けの有る広々としたフロアに、サークル状に作られた敷地から山々が見渡され、悠々とした気持ちと、爽やかな風が流れて、ピリッとした姿勢が正せる、そんな四季を味合える自然を共有した空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やホールのソファーはほぼ座る場所が決まっており、入居者様同士のなじみの関係で落ち着き過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ドアには、名前を掲げ自分の部屋を確認出来るよう目印にしている。ご家族やご自分の写真を飾り、装飾品、小物等、持参する事で、ドアを開けられると自分の部屋だと思われるよう工夫している。	入口の表札の横に素焼きの装飾があり、居室玄関を彩っている。アンティーク調のベッドと床頭台、洗面台が常設されスッキリした部屋なので、防災にも役立つ。家族写真や家族の描いた絵が豊富に飾られ、鶯の音が聞こえる如く装飾品が利用者に語りかけてくる。共有空間で過ごす事が常だからこそ、居室は郷愁を誘いホッとできる空間を生んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室ドア、トイレ等に解りやすく表示されている。身体状態に合わせて、自分の力をいかして動けるように工夫している。		